

※首都圏直下・南海トラフ等大型地震は前兆検知から発生までの日数は数日の可能性が高いですが、No1778前兆は30年の観測歴上最長継続の最大に難解な変動です。No1778前兆につきましてはPHP新書「地震予報」に記したため、読者の皆様に出版後の前兆変動の変化について続報公開しています。No1778以外の他の地震前兆につきましては本HPでは公開できません。E-mail またはFAXで配信している観測情報でのみ公開しています。本観測研究をご支援下さる皆様にNo1778以外の別の地震前兆変動の有無や発生推定内容等の観測情報を配信しています。観測情報配信の「公開実験」に是非ご参加下さい。2024年1/1発生の「能登半島地震M7.6」につきましても、2023年12月31日の午前11時に、M7.3±0.5の地震が1/2±2に発生する可能性「予報」を観測情報配信参加の皆様に配信し、地震発生に間に合いました。No1778に関しては解説資料の32頁～35頁を参照下さい。

※2024.8/8発生の日向灘M7.1地震は、7/27 高知観測点の複数観測装置に前兆変動極大が綺麗に観測され(前兆規模M6.1±0.5、水深補正M0.9±3、推定規模M7.0±0.5)、前兆極大から地震発生までの日数はプレート境界型の遅いパターンTmap=12日で発生致しました。またその後は一切大型地震が推定される前兆変動は観測されておりませんでしたので、南海トラフ巨大地震発生の可能性は考えられないことを、毎日、高知観測点全観測基線波形を掲載して、日々配信の観測情報で配信公開致しました。

No1778長期変動 PBF特異継続で再考 5/6±2に静穏化の場合=5/17±3の可能性

PBF特異
初現 3/11.2

極大 4/3.6

→ 5/17±3 発生の可能性

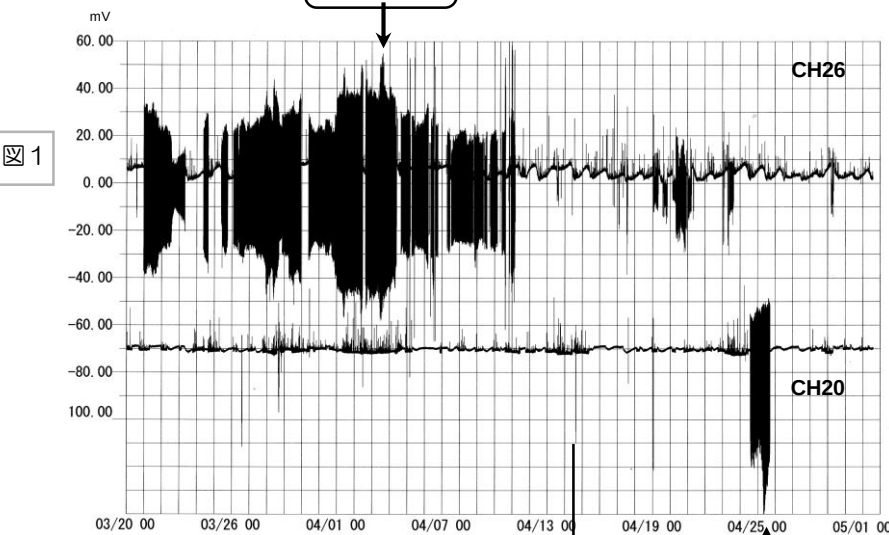


図1

**PBF特異が静穏化しない限り
発生しない可能性有**

◆前情報ではCH26の顕著特異の初現と極大の関係から T_{fap}:T_{map}=20:13 経験則を使用して、4/30±2 (5/2まで) 発生の可能性を考えました。しかし、一向にPBF特異が終息せず、継続出現し続けています。図1のとおり、CH26の変動は顕著特異変動の他、PBF特異変動で構成されています。従ってPBF特異の初現を検討し直しました。考えられるのはStage-33としたPBF特異で、初現は3/11.2です。初現を3/11.2としますと、5/17±3を示します。

◆CH20は4/25.4をピークに顕著特異が出現し、直前変動の可能性も考えましたが、4/14を初現と仮定しますと、5/16±3を示します。3月末～4月初旬にも小さな変動がありますが、不明。

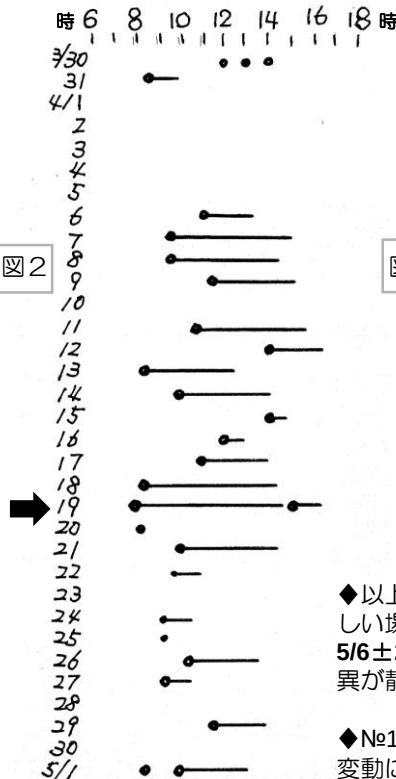


図2

T_{fap}:T_{map}=20:13
初現 4/14 極大 4/25.4

→ 5/16±3 発生の可能性

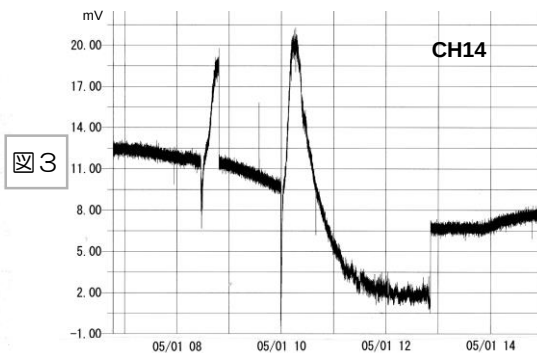


図3

◆図3に示すような、2024年10月～11月時期にも出現しました変動が04月中に出現しました。CH12,14,34に同期が認められます。図2は、この変動の出現日と変動出現開始時刻に●印を、通常基線に戻るまでの変動継続時間を一で示した図です。一番継続時間が長い4/19を極大と認識して、初現を4/6としますと、5/14±3時期を示します。離れた3/30、31にもありますが、先行特異とすると誤差は大きいですが調和します。

T_{fap}:T_{map}=20:13
初現 4/6.4 極大 4/19.6

→ 5/14±3 発生の可能性

◆以上のとおり、5/17±3時期を示す結果が3つの変動から示されます。仮にこの認識が正しい場合は、5/6±2にPBF特異変動が静穏化する計算になります。現在継続中のPBF特異が5/6±2に静穏化しない場合は、05月末時期の可能性も考えられますので、5/6±2にPBF特異が静穏化するかどうかを観測して、続報させて頂きたいと考えます。

◆No1778の推定領域・推定規模等には変更修正は一切ありません。発生日の推定のみです。変動に認識、解析がうまくいかず、大変ご迷惑をおかけし、大変申し訳ございません。観測と検討を続けます。